防災タウンウォッチング実施手引き

西条市
西条市教育委員会
タウンウォッチング実施手引き作成委員会
京都大学大学院地球環境学堂

はじめに

日本は地震・土砂災害・洪水災害・火山災害・雪害・突風災害など多くの自然災害が発生する要因を多く抱えており、毎年人的・物的被害が発生している。このような国に居住するにあたり、防災教育は不可欠な教育項目である。

防災教育は教室の中で写真やビデオを鑑賞するだけでは、実践には結びつけることが難しい。2007年8月に文部科学省の「防災教育支援に関する懇談会　中間取りまとめ」では、防災教育によって以下の4つの能力を身につけることを基本的考え方としている。

1.それぞれが暮らす地域の災害や社会の特性、防災科学技術の知見等についての知識を身に付け、防災・減災のために事前に備え、行動する能力
2.自然災害から身を守り、被災した場合でもその後の生活を乗り切る能力
3.災害からの復興を成し遂げ、安全・安心な社会に建て直す能力
4.進んで他の人々や地域の安全を支える能力

タウンウォッチングは、地域を新たな視点で観察し、地域の歴史や文化を再認識することから、防災教育の基本的考えの一つである、「それぞれが暮らす地域の災害や社会の特性、防災科学技術の知見等についての知識を身に付け、防災・減災のために事前に備え、行動する能力」の向上が期待できる。2006年度に愛媛県西条市において試験的にタウンウォッチング・山ウオッチングを実施した結果から、災害認識向上への効果が認められたことからも、防災教育においてタウンウォッチングが果たす役割は大きいといえる。しかし、タウンウォッチングが「行事」で終わっては本来の防災教育の目的を十分に果たすことはできない。タウンウォッチングをきっかけに日常の防災行動につなげることが重要なのである。

1995年に発生した阪神淡路大震災以降、個人や家庭における防災能力である自助と地域の連携による共助の向上が強く求められるようになっている。本書で扱うタウンウォッチングは、学校が中心となって地域と協同して実施していくものであり、タウンウォッチングの実施を通じて、防災教育の向上だけでなく、地域の連携体制の構築を目的としている。

本書は、実施順番通りに１．タウンウォッチングの目的、２．タウンウォッチングの準備、３．タウンウォッチングの実施、４．タウンウォッチング後の活動の4章から構成されている。準備を通じて現状を把握するという過程に重要な意味があるため、「２．タウンウォッチングの準備」に多くのページを割いている。本書は、2006年に愛媛県西条市のモデル地域において実施したタウンウォッチングの施内容を中心に、実施校の担当教員によって議論・作成された実践的なものである。本書によって、多くの地域でタウンウォッチングが実施されることを切望する。

タウンウォッチング
実施手引き作成委員会

目次

1.　防災タウンウォッチングの目的　－３－

2.　タウンウォッチングの準備　　－６－

2.1　目的と実施日程の決定　8
2.1.(1)　目的の決定　8
2.1.(2)　日程の決定　11
2.1.(3)　学校内／カリキュラムでの位置づけ　12
2.2.(4)　地域での位置づけ　13
2.2　タウンウォッチングの準備　14
2.2.(1)　当日までの流れ　14
2.2.(2)　参加者とその役割　16
2.2.(3)　市役所・教育委員会からの情報提供　18
2.2.(4)　タウンウォッチングで見るポイントを整理する　19
2.2.(5)　地域に連絡をする　22
2.2.(6)　備品をそろえる　23
2.2.(7)　児童・生徒に説明する　24
2.2.(8)　記入プリントの準備　25
2.2.(9)　準備チェックリスト　28

３．タウンウォッチングの実施　　- 29 -

3.1　当日の流れ(例)　30
3.2　地図作成と発表の流れ　32
3.3　ヒアリングの仕方　36
3.4　トラブルに備える　37

４．タウンウォッチング後の活動　- 38 -

4.1　事前・事後アンケートを整理する　39
4.1.(1)　アンケートの実施　39
4.1.(2)　アンケートの分析例　40
4.2　地域のハザードマップなどと重ね合わせる　42
4.3　作った地図を更新する　43
4.4　自分の防災対策を考える　44
4.4.(1)　地域で自分達ができることを考える　44
4.4.(2)　西条市におけるタウンウォッチング後の活動例　44

資料 1：タウンウォッチングの歴史　46
資料 2：他の地域でのタウンウォッチング ～京都大学の取り組みから～　46
資料 3：西条市でのタウンウォッチング　47
資料 4：2004年台風災害　47

1

防災タウンウォッチングの目的

自分たちの住むまちをあらためて注意しながら歩くことで、普段は気付かないまちのいいところ、悪いところを見つけることができる。タウンウォッチングはもともと都市計画のためのツールとして使われてきたが、ここでは特に防災タウンウォッチングのことを指す。まちの中の危険箇所や防災設備・史跡などを探すことで、災害を他人事ではなく自分も関係のあるものだと認識し、防災意識の向上を図り、行動につなげることを促す。

防災における自助と共助の向上が求められている中で、どのように地域が一体となって取り組むかが問われている。タウンウォッチングは、小中学生が中心となって、教師・保護者・市の職員・自治会・ボランティアなどが協同して実施に取り組む必要があり、これらの活動を通じて学校を中心とした共助の関係を構築することも目的としている。

以下、本書が提案するタウンウォッチングの目的である。

・地域の状況を知る
・子ども・大人共に防災への関心を高める。
・子どもたちの総合的な情報収集能力、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を養い、西条市が2006年から実施する１２歳教育の導入とする。
・被災者の経験を伝承する。
・地域の問題点を発見し、その解決策を提案する。
・災害時の協力体制を形成する。
・地域の人がそれぞれ高い防災意識をもって、災害にそなえることができる。
・子どもたちが地域の重要な防災の担い手となっていくためのきっかけとなる。

タウンウォッチング実施における役割分担と当日の流れを図1-1と図1-2に示す。

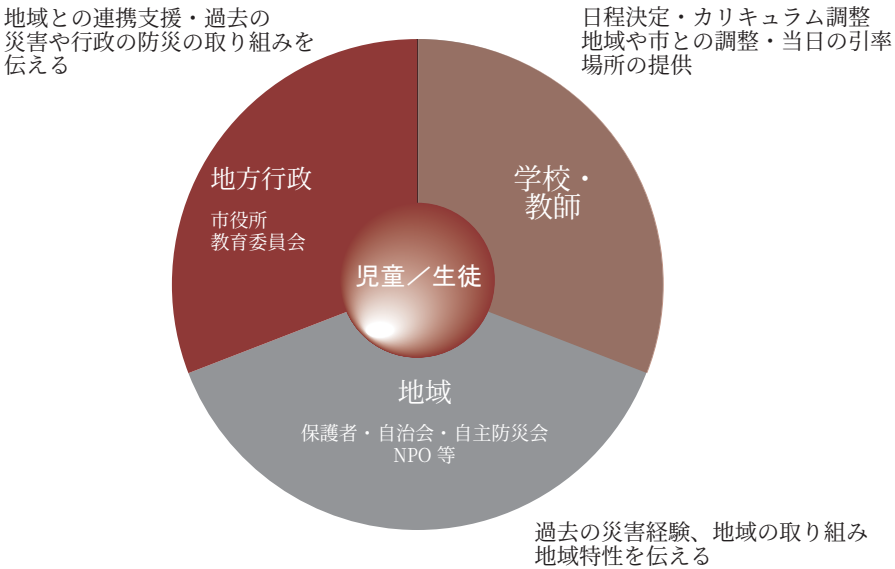


図 1-1：タウンウォッチング実施における役割分担

図 1-2：タウンウォッチングの流れ

2

タウンウォッチングの準備

タウンウォッチングを実施するためには、目的・日程・授業カリキュラム内の位置づけを決定する必要がある。これらを決定した上で、学内・地域を含めた手の確保・役割分担、予算の確認、実施場所の決定、文具などの用意などの具体的実施準備を進めていく（図2-1）。

タウンウォッチングは、学校が中心となって実施することを想定している。まず、学校内で検討・準備をし、地域や市役所に参加依頼や応援依頼を行う。

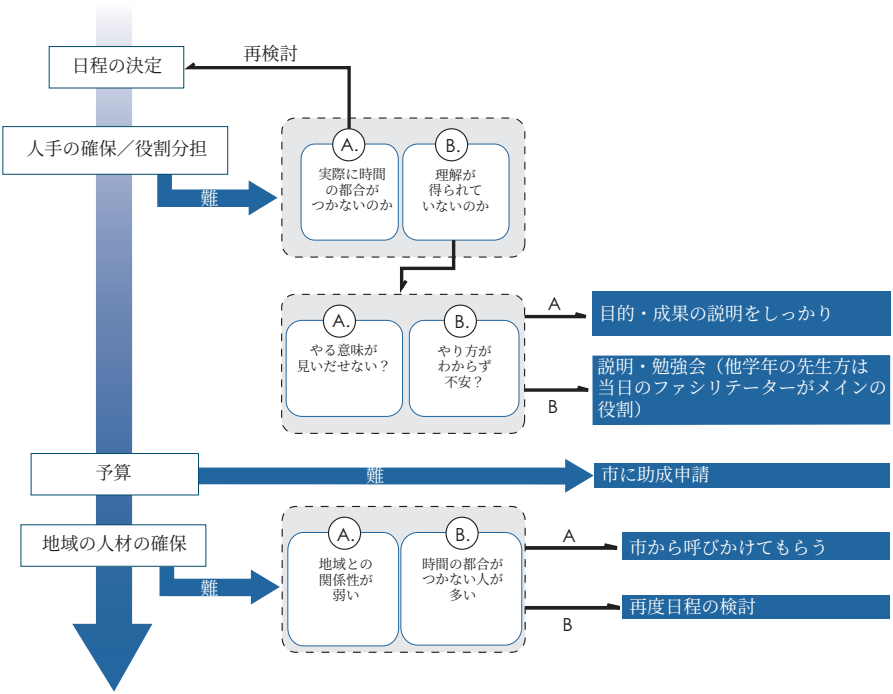


図 2-1：タウンウォッチング準備の流れ

2.1　目的と実施日程の決定

2.1.(1)　目的の決定

本書では、日数や目的に合わせて3タイプのタウンウォッチングプログラムを選択できる(図2-2・表2-1)。防災教育カリキュラムがなく、これから実施する場合には、タウンウォッチングを中心に、事前学習から事後学習を通して防災について総合的に学習する17時間の「総合型(表2-2)」を選択すると良い。既にカリキュラムの中で防災教育が実施されている場合、カリキュラムの前半で防災意識を持つきっかけとして使用する「きっかけ型」を、カリキュラムの後半にまとめとして防災行動につなげるために使用する場合には「まとめ型」を選択するとよい。「きっかけ型」は、防災カリキュラムがなく、タウンウォッチングの体験などとして使用するにも適している。しかし、体験として「きっかけ型」を実施した場合、一度きりの「イベント」として終わってしまうことが多い。防災行動へつなげることが防災教育の要であるため、4章で示す例を参考にして、他の教科との連携や地域活動と関連させて補足を行い、継続を試みることが必要である。

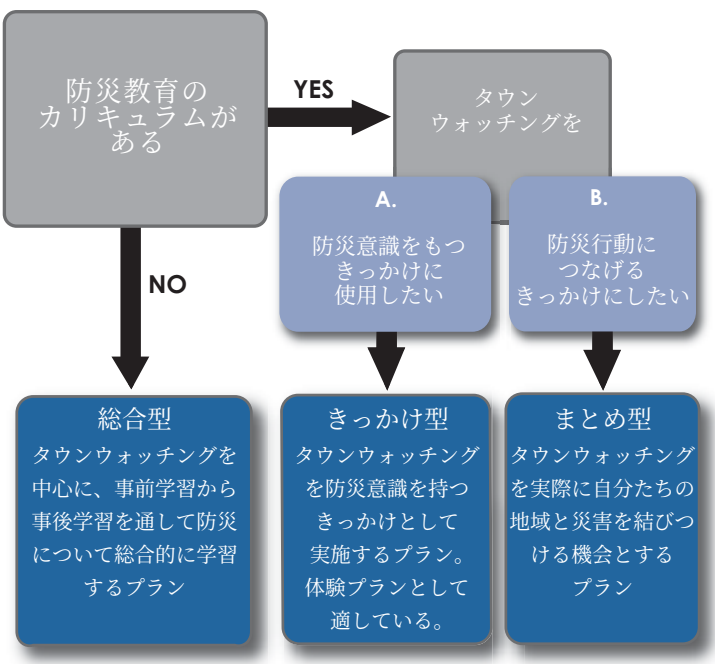


図 2-2：目的別タウンウォッチングの種類

タイプ	特徴	メリット	デメリット	備考
総合型 （17 時間）	タウンウォッチングをメインとして、事前学習から事後学習を通して防災について総合的に学習するプラン。	計画的に防災教育を進めることができるので、より効果的である。	学校によっては時間の確保が難しい。	関連教科や地域活動と関連させるように計画することもできる
きっかけ型 （1 日）	タウンウォッチングを防災意識を持つきっかけとして実施するプラン。体験プランとして適している	１日で行える。	一度きりのイベントで終わってしまうことが多い。何らかの形での補足が必要	補足に時間がとれなかったとしても、タウンウォッチング後に感想文を書かせたり、防災に関連する宿題を出したりと、各教科の中で防災に関連することを学習しながら復習したりすることが望ましい。
まとめ型 （1 日）	ある程度防災について学んでいるので、タウンウォッチングをすることで実際に自分たちの地域と災害を結びつける機会とする。	防災学習を一通り終えた後に行うので、カリキュラムの変更などをする必要がない		

表 2-1：タウンウォッチングの種類と特徴

	テーマ	内容
1時間目	災害の種類を知る 災害の恐ろしさを知る 日本の過去の災害を知る	1. 災害の種類 2. 災害の恐ろしさ 3. 災害は突然に襲ってくること を知ってもらうことをねらいとする。 災害事例の写真を見ながら感じたこと などを話し合う。
2時間目	災害のメカニズムを理解する	災害の要因となる自然現象の理解と人の生活とのつながりを理解する
3時間目	地域の災害の歴史を知る 地域の危険を想像する	資料などで地域の災害の歴史を学び、同様の災害が発生した場合を想像する
【1日】 4時間目 5時間目 6時間目 7時間目 8時間目 9時間目	地域を歩いて地域を知る	タウンウォッチング・きっかけ型の実施 2.2.4 に示す見るポイントに注意
10 時間目	防災対策を考える	学校、家、地域、旅行先などの場所と平日と休日、昼と夜などの時間ごとに災害が発生したときのことを考える
【1日】 11 時間目 12 時間目 13 時間目 14 時間目 15 時間目 16 時間目	防災対策を行うための計画をつくる	タウンウォッチング・まとめ型の実施 2.2.4 に示す見るポイントに注意 「4.　タウンウォッチング後の活動」 も参照に
17 時間目	地域とのつながりを考える	これまで学んだことを地域へ伝える方法を考え、実行する

表 2-2：タウンウォッチング・総合型の詳細

2.1.(2)　日程の決定

タウンウォッチングは学外へ出るため、付き添い等で学内でも多くの人手を必要とするだけでなく、自治会やPTA・市役所など地域との日程調整も必要になる。天候や他の授業との兼ね合いを総合して日程を決定する。

夏季に実施する場合は、日射病、熱射病に注意する必要がある。帽子を着用し、こまめに水分補給するように指導する。雨天の場合、多少の雨なら、決行することも可能である。ただし、川などの増水や地盤が弱くなるので十分な注意とやめる勇気が必要である。

日程を決定する際のポイント

- 自治会や PTA、市役所との日程調整
- 授業との調整
- 天候・時期

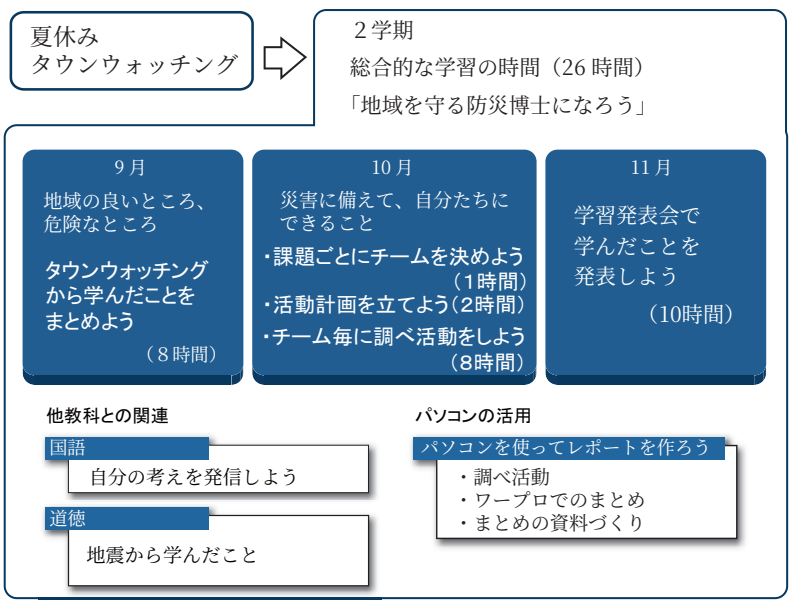
写真：猛暑の日は参加者の疲れが目立った

2.1.(3)　学校内/カリキュラムでの位置づけ

学校内やカリキュラム内でのでの位置づけ例を挙げる。時間や人手などを考慮してきっかけ型やまとめ型を変化させると位置づけしやすい。以下に実際の取り組みの例を紹介する。

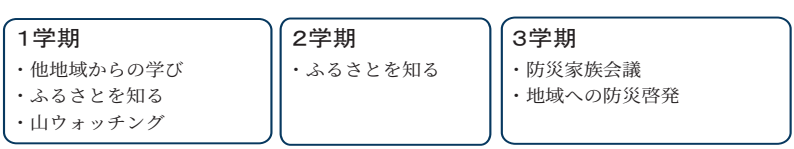
例1）小学校（第６学年）

夏休みに防災教育の導入としてタウンウォッチングを行い、その後２学期の総合的な学習の時間において防災教育を行う。



例２）中学校（第１学年）

１年を通して総合的な学習の時間を防災教育のためにあてている。その他の教科の中でも積極的に防災に関連することを学ぶ。



2.1.(4)　地域での位置づけ

地域で行っている行事の中に防災学習を組み込んで、タウンウォッチングだけではない継続的な学習の流れを作る。タウンウォッチング実施前から地域と交流を持つことにより、タウンウォッチングの実施がスムーズになる。地域と連携しやすい行事として以下が例としてある。

参観日

地域の方も参加できる自由参観日にして、防災に関連する授業を行い、生徒と一緒に学んでもらう。タウンウォッチング前の事前学習の場とするのもよい。

文化祭

防災学習についての展示発表を行う。タウンウォッチングで作成した地図を展示するのもよい。
防災劇の上演（稲村の火など）。／屋台で炊き出しをする。

運動会

バケツリレー（地区別対抗などで生徒と地域の人が一緒になってやる。）
屋台で炊き出しをする。

家庭訪問

タウンウォッチングの活動を話題とすることで、家庭内での防災の取り組みのきっかけとなる。

その他学校と地域の交流の機会となる場

- サマーキャンプ
- クリスマスコンサート
- しめ縄作り
- ふるさと巡り
- 学習発表会
- 人権コンサート
- 歩くぞ 28km!!
- 親子奉仕作業
- 地方祭後のゴミ拾い

2.2　タウンウォッチングの準備

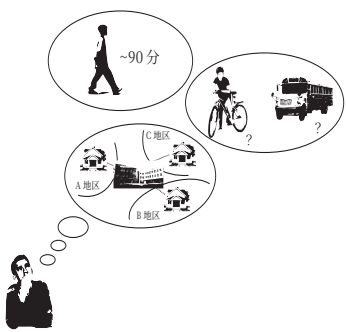
2.2.(1)　当日までの流れ

タウンウォッチングの当日までの流れを図2-3に示す。カリキュラム決定時期にタウンウォッチングの位置づけを行ったら、細かい準備に入る。

図 2-3　タウンウォッチング当日の流れ

学内で役割分担をする

- 各グループのファシリテータ
- 各種資料の準備
- 備品の準備
- 会場設営
- 地域の方々との連絡調整
- 全体進行係



地域を決める

- 広さ…１時間半（まちあるきの時間）で回れる範囲。下見の時点で歩いてみて３０～４０分くらいの範囲。
- 場所…学校を中心としてそれぞれの生徒が住むエリアごとでグループ分けすると、慣れた道なので歩きやすい。また逆に新たな発見があって新鮮に感じることができる。
- 少し距離が離れている場合、自転車や車で移動してからまちあるきすることになるが、駐車場や駐輪場を確保しておくことが重要である。

エリア分けの例

情報を集める

・地域の過去の災害についての体験談など
・過去の災害で被害を受けた場所

実際に教員と地域の人と歩く

・教員はできるだけ全員、地域の方はできるだけ詳しい方に来て頂く。実際に地域を歩きながら、過去に災害があった箇所や危険だと思われる箇所などを地図にチェックし、コースを最終決定する。写真も撮っておく。各グループの見るポイントの数が均等になるようにエリア分けする。

写真：下見の様子

下見の際の持ち物

- デジタルカメラ
- 地図
- 筆記用具

2.2.(2)　参加者とその役割

タウンウォッチングは、学校以外に、自治会やＰＴＡ・市役所・住民など、地域を構成する多様な立場の人が参加することが望ましい。

ひとつのグループに、多くの立場の人が関わることが望ましいが、必ずしも揃うとは限らない。その場合には、グループは児童・生徒と教師、保護者などで構成し、タウンウォッチングのコース上に市役所の人や自治会の人に待機してもらい、説明を受けるというような方法もある。

効果的なグループ構成と役割

- 児童・生徒…1グループに5～6名が理想。最大10名。
- 教師…各グループに最低１人。生徒たちの引率など。ファシリテータをできるのが望ましい。市の担当者や専門家などの言葉を生徒が理解しているかを確認し、必要に応じて補足する役目がある。ただし、説明のしすぎは禁物。生徒たちの「気づき」を促すように。
- 自治会…地域の文化や行事、過去の災害経験などを説明する。地域のことに関して詳しい人がよい。
- 市の防災担当…市の防災計画について説明する。消防関係の人でもよい。
- 保護者…子供たちと一緒に学び、家庭内での防災意識を向上させる。まちあるきの際、交通安全などを促す。

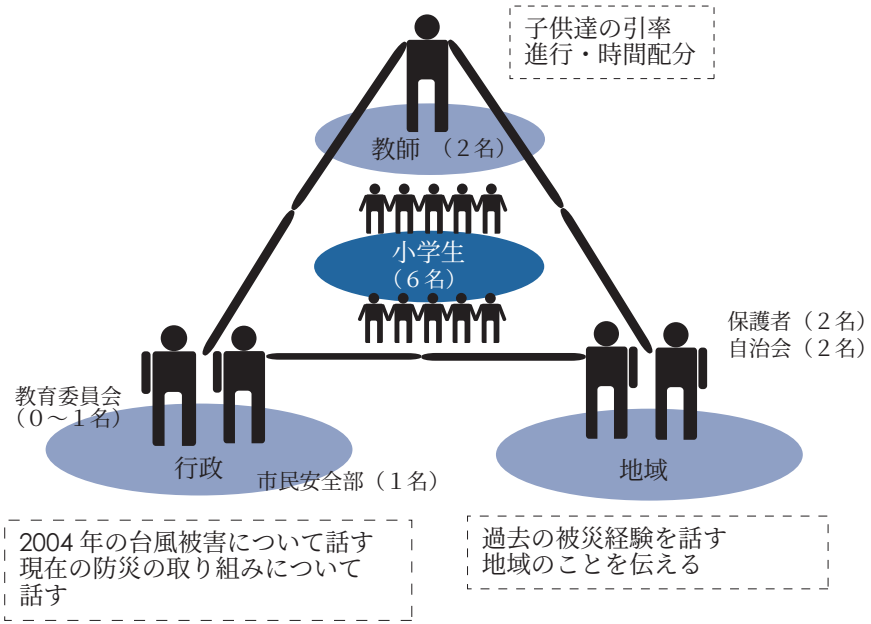


図 2-4　グループ構成の例

写真：自治会の方の説明を聞く生徒達

2.2.(3)　市役所・教育委員会からの情報提供

実施校は、日程調整・役割調整など全体をまとめる。全てを実施校で行うのではなく、情報提供や人材提供、人材やタウンウォッチング場所の紹介、資料の提供など、タウンウォッチングの実績のある学校や市役所や教育委員会に相談すると良い。学校が他へ希望するものと市が提供できるものの一例を図2-5で紹介する。

学校が希望するもの

- 地図…安全施設、避難施設などの位置がわかるもの
- 地域の地図…タウンウォッチングができる範囲のもの
- 防災士の名簿…自治会の中の防災士の一覧
- 協力してもらえる自主防災（消防団）組織の一覧もしくはその照会方法
- 防災に関わるものの申請書のデータ…起震車、避難訓練指導
- 起震車などのその月のスケジュール
- 各地域で話をして下さる方の紹介、各地域で話をしていただく場所の紹介
- 啓発用貸与備品一覧…パネル写真、防災グッズ、地図など
- 地域の防災関連行事の情報
- 市のサポート体制…市としてどの程度までの援助ができるのか（人材・備品を含めて）

市役所が提供出来ること

- 市民安全部など、市役所内での連絡調整
- 市内小中学校でのタウンウォッチングへの取り組み状況など
- 防災グッズ、パネルなどの利用について

No.	西条市が用意できる資料	備考
1	都市計画図	1/2500　都市計画区域のみ
2	ポラロイドカメラ（10 ほど）	フィルムは各校で準備を
3	バインダー	100 枚用意可
4	被災写真	電子データで保存
5	津波浸水区域	○東南海・南海地震（ホームページにも記載）
6	震度分布図	○東南海・南海地震　○中央構造線 (両方ホームページにも掲載)
7	自主防災組織に関する資料	○結成率、○組織数、○主な活動内容等
8	各防災啓発ビデオ	地震、自主防災、土砂災害
9	雨量計位置図	市単独でも 5 箇所設置（ホームページでも閲覧可能
10	河川量水標の位置図	27 河川 30 箇所に河川の水量が分かる目印を設置
11	展示用パネル	被災写真、震度分布図、津波予測図、防災マップ、災害警戒箇所図
12	非常用持ち出し袋	１つのみ。
13	16 年災害時のパネル写真　A3 サイズ 約 50 枚程度	
14	16 年災害の流木・風倒木処理状況	
15	木製ダム調査研究事業についての資料	
16	「山の防災と活性化について語る会」資料	
17	16 年災害河川災害復旧工事箇所図	
18	「16 年災害の記憶」カラー 145 頁	

図 2-5 学校が他へ希望するものと市が提供できるもの

2.2.(4)　タウンウォッチングで見るポイントを整理する

タウンウォッチングのポイントは災害の種類やきっかけ型・まとめ型などの違いによって異なる。きっかけ型の場合は、史跡や文化など広く知ることができるポイントを選定するようにする。まとめ型の場合には、防災行動につながる危険な場所や安全な場所などを知ることができるポイントを選定するようにする。また、それぞれの管理者と使用方法についても確認をしておく。以下の表はタウンウォッチングで見るポイントの例である。

場所	子供に知って欲しい内容	作業	説明する人
両側がコンクリートブロック塀の狭い道	・地震が来たらどうなるか	道幅を測る ブロック塀の高さを測る	市民安全部
消火栓用具収納箱	・消火栓用具収納箱の使い方 ・意外と身の回りにたくさんあること	箱を開けて中を見る	市民安全部
消火栓	・消火栓の使い方 ・意外と身の回りにたくさんあること	蓋を開けて中を見る	市民安全部
消化器	・消火器の使い方 ・意外と身の回りにたくさんあること	箱を開けて中を見る	市民安全部
水路	・洪水であふれたらどうなるか	水路の幅や深さを測る	市民安全部

表 2-3　タウンウォッチングで見るポイントの例

場所	子供に知って欲しい内容	作業	説明する人
土嚢	・何のために使うのか	可能なら中身を見せてもらう 持ってみる	自治会 保護者
狭い道と崩れかかった建物	・地震が来たらどうなるか	道幅を測る	市民安全部
だんじり収納所	・西条祭りの歴史 ・だんじりについて	可能なら だんじりを 見せてもらう	自治会 保護者
古い木造の家屋	・地震が来たらどうなるか	観察する 家の人に対策など話を聞いてみる	市民安全部
児童公園	・避難場所になるか	周辺の状況を観察する 広さを確認する 水場を確認する	市民安全部
石碑	・石碑の由来	何が書いているかを調べる	自治会 保護者

場所	子供に知って欲しい内容	作業	説明する人
加茂川	・2004 年の台風の時の様子 ・平常時との違い	水の量を記録する 河川敷の利用状況を記録する	市民安全部 自治会 保護者
遍路道	・お遍路さんについて	何か書いてあるか調べる 周辺にお遍路をしている人がいるか観察する	自治会 保護者
水門	・どういう時に使うのか	水の量を確認する 水門がどのように作動するのかを確認する	市民安全部
お寺	・お寺の由来、歴史	お坊さんに話を聞く	自治会 保護者
森林	・森林の状態を見る	どのような種類の植物があるのか、手入れはどうなっているのかを聞く	市民安全部 森林組合
流木	・谷の中を見る ・なぜ流木が発生するのか	岩や流木などがどのようなところにどれぐらい溜まっているのかを見る	市民安全部
ダム	・ダムを見る	どのような場所にダムが造られているのか、どのような役割があるのかを聞く	市民安全部

2.2.(5)　地域に連絡をする

・１～２ヶ月前には地域の自治会長を通して連絡してもらう。１ヶ月前には教師と地域の人とで下見を実施する。
・１グループに子ども５～６人の場合、地域の方は１～２人ついてもらえるように調整するとよい。付添が難しい場合は、チェックポイントで待機してもらい、説明をしてもらうようにする方法もある。
・タウンウォッチングを簡単に説明したパンフレットなどと一緒に配布するとよい。

平成 20 年 8 月

自治会の皆様へ

○○小学校　校長　△△　□□

タウンウオッチングへの参加のお願い

拝啓
　皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
この度、本校では下記の日程にてタウンウオッチングを実施することとなりました。タウンウオッチングは、児童が街歩きを通じて、地域の歴史や危険箇所・防災への取り組みを学び、防災意識と地域への関心を高めることを目的として実施しております。タウンウオッチングは、地域の方々のご協力無しには成り立ちません。
お忙しいところ誠に恐縮ですが、是非、タウンウオッチングの趣旨をご理解いただき、地域の歴史や防災への取り組みを紹介すべくご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

日時：平成 20 年 8 月 28 日 (木)　8:30 集合
集合場所：○△公民館
持ち物:筆記用具、弁当、水筒 (当日は暑いことが予想されますので十分にご注意ください)
服装：動きやすい服装、帽子
※雨天決行ですが、台風や大雨の場合は延期します

＜当日のスケジュール＞

8:30	集合 (児童以外)、全体説明
9:20	全体集合、説明、アンケート
10:30	まち歩き (途中で昼食)
12:30	地図作り
13:40	発表、コメント、アンケート
15:20	終了

図 2-6 自治会への案内文例

2.2.(6)　備品をそろえる

備品	数	用途	備考
白地図（全版）	各グループ １枚	まち歩きで発見したことを 書き込み、発表する	中央にエリアの地図が全部はいるように配置し、周りに文字を書き込んだり、写真を書き込んだりする余白を残しておく。（写真１参照）
マーカーペン （赤・青・緑・ 橙・黒）	各グループ １セット	白地図に書き込む	油性マーカーは裏写りするので下に新聞紙を敷く必要がある
付箋３０枚 (10cm×10cm 程度のもの)	各グループ １セット	それぞれの箇所の説明を 書いて貼る	
両面テープ （写真貼付、掲示用）	各グループ １セット	写真を貼り付ける	
クリップボード （A４程度）	全員分	まちあるきの時、メモをとる のに使う	
ポラロイドカメラ （フィルム２０枚分）	各グループ １台	ポイントごとに写真をとる	デジタルカメラの場合、 印刷等に時間がかかること に注意
持ち歩き用地図 (A4 ～ A3 サイズ 程度)	全員分	まちあるきの時、場所がわかる ようにチェックする	
子供用プリント	子供全員分	まちあるきの時、気付いたこと を書き込む	
記録用メモ	各グループ １枚	まちあるきの時、グループ内の 発言をメモする	
アンケート	全員分		
ホワイトボード または黒板	1	発表時、地図を掲示する	
指揮棒	1	発表時に使用	
ビデオカメラと ビデオテープ （１２０分）	各グループ １台	記録用としてまちあるきの様子 を撮影。後でグループ内の発言 を確認。	なくてもよい

その他：プロジェクター、スクリーン、マイクなど

表 2-4　備品リスト

2.2.(7)　児童・生徒に説明する

タウンウォッチングを開始するにあたり、児童・生徒には以下のことを説明する必要がある。

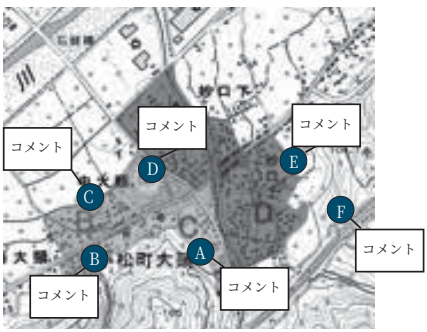
自然災害にはどのようなものがあるか	なぜタウンウォッチングをするのか	タウンウォッチングでどのようなことをするのか
地震が起きたらどのような被害が出るのか（写真を見せながら気付いたことを挙げてもらう）		台風が来たらどのような被害が出るのか（写真を見せながら気付いたことを挙げてもらう）
災害の時役立つものにはどのようなものがるか（消火栓、消火器、土嚢など）	地図作り 発表について	街歩きをするときの注意・安全性など。（「3.3　ヒアリングの仕方」、「3.4　トラブルに備える」を参照）

2.2.(8)　記入プリントの準備

2.2.(4) の「表 2-3　タウンウォッチングで見るポイントの例」を参考に、タウンウォッチングで確認する内容を整理し、見聞きしたことを書きとめるプリントの準備をする。

- 地震や台風が来たら危険だと思うところを探してみましょう
- 地震や台風の時に役立つものを探してみましょう
- 自分の好きな場所を探してみましょう

例1



地震や台風が来たら危険だと思う場所を図や絵で表し、切り離して直接マップに貼れるようにする。

例2

具体的な場所を提示してその場所の安全度を書かせる。タウンウォッチングの前後でどう変化するかを見る。

この場所は地震が起こったときどのくらい危険だと思いますか？〇を付けてください。またなぜそう思ったのか説明してください。

危険だと思う ←→ 安全だと思う

名前：　　学校名：　　日付：

No.	場所	危険⇔安全	なぜそう思うのか
1	両側がコンクリートブロック塀の狭い道	1　2　3　4　5 危険　　安全	
2	消火用具収納箱	1　2　3　4　5 危険　　安全	
3	消火栓	1　2　3　4　5 危険　　安全	
4	消火器	1　2　3　4　5 危険　　安全	
5	水路	1　2　3　4　5 危険　　安全	

今日のタウンウォッチングの感想

○○小学校タウンウォッチング

（　　）班　　名前（　　）

・地震や台風が来たら危険だと思うところを探してみましょう。

場所（　　）
危険だと思う理由

場所（　　）
危険だと思う理由

・地震や台風の時に役立つものを探してみましょう

場所（　　）
名前（　　）
どのように使うか

場所（　　）
名前（　　）
どのように使うか

・自分の好きな場所を探してみましょう

場所（　　）
好きな理由

場所（　　）
好きな理由

2.2.(9)　準備チェックリスト

以下の「準備チェックリスト」を参考に、タウンウォッチングの準備状況を確認しましょう。

1	備品はそろっているか	はい／いいえ
2	人数は確保できているか	はい／いいえ
3	学校内での位置づけははっきり認識されているか	はい／いいえ
4	地域への連絡はできているか	はい／いいえ
5	市役所との連絡はできているか	はい／いいえ
6	役割分担がきちんとできているか	はい／いいえ
7	予備日は設定してあるか	はい／いいえ
8	事前学習・事後学習の方針は立っているか	はい／いいえ
9	エリア分けは適切か	はい／いいえ
10	会場の確保はできているか	はい／いいえ
11	一日のスケジュールは適切か	はい／いいえ

表 2-5　準備チェックリスト

3

タウンウォッチングの実施

3.1　当日の流れ (例)

8:30~9:00　準備（30 分）

・ 会場設営

プロジェクター、スクリーンの設置。必要であれば机や椅子を配置。

・ 備品の確認

9:00~9:30　一日の流れの説明（30 分）

・ 始めの挨拶
・ 参加者の紹介（自治会や保護者の方々）
・ まちあるきで見るポイントなどを説明（PPT 使用→別紙参照）
・ 災害の映像を見せたり、地域の方に話をしていただくのもよい。

9:30~9:50　アンケート（20 分）

・ 事前のアンケート。生徒だけでなく、参加者全員を対象とする。

・ 隣の人と相談したりしないように注意。

9:50~10:00　打ち合わせ（10 分）

・出発前にグループごとに集まって顔合わせする。
・ファシリテーターが中心になって、ルートなどを決める。
・子供たちの中で記録係とカメラ係を決める。

※カメラ係を集めてカメラの使い方を説明する

10:00~11:30　まちあるき（90 分）

グループごとに決められたエリアを歩き、探すポイントを見つけてメモを取ったり、写真を撮ったりする。

※大人たちだけでどんどん進んでいかないように。
あくまでも主役はは生徒。

※タイムキーパーにあたっている人は見るべきポイントをまわれるようにうまく時間配分しながらグループを促すこと。

11:30~12:30　昼食（60 分）

・学校に戻ってきてから昼食をとる

12:30~12:40　地図作りの説明（10 分）

・パワーポイントなどを使用して説明する。

12:40~13:40　地図作り（60 分）

・まず白地図の上にタイトル（「○○小学校タウンウォッチング」）と書く。

・発見した場所にマーカーで印をつけ、説明を書き込んだり、写真を貼ったりする。

13:40~15:00　発表（1 グループ 10 分）×グループ数

グループごとに前に出て、まちあるきで発見したことなどを発表。
（できれば生徒だけでなく、一緒にまわったスタッフも。）

他のグループから質問してもらう。なくても司会者から質問してみる。
生徒が答えられなかったときは同じグループの大人が答える。

司会者がコメントしてまとめる。

＜注意＞

※グループの数によっては、発表に時間がかかることを考慮する
※地図作りの中で発表練習をする時間を持ってもよい

15:00~15:10　まとめ（10 分）

タウンウォッチングを通して感じて欲しいこと、学んで欲しいことなどを総括する。

15:10~15:30　アンケート（20 分）

事後アンケート

15:30~16:00　片付け（30 分）

3.2 地図作成と発表の流れ

タウンウォッチング―地図作り

1

準備するもの

- 白地図
- マーカー４色（赤、青、緑、黒）
- ふせん
- 両面テープ（写真を地図にはるためのもの）
- 筆記用具
- タウンウォッチングでとった写真
- タウンウォッチングでメモした紙、地図

2

白地図の上に「〇〇小学校　タウンウォッチング　〇班」と書いてください

危険な場所に青いマーカーで色をつけてください

その場所がどのように危険なのか、ふせんに鉛筆で説明を書いて、近くにはってください

写真があれば近くにはってください

3

自分の好きな場所に赤いマーカーで色をつけてください

その場所がどういう場所なのか、ふせんに鉛筆で説明を書いて、近くにはってください

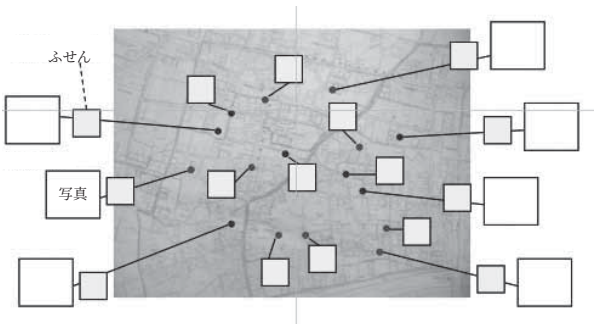
写真があれば近くにはってください

災害の時役立つものがある場所に緑のマーカーで色をつけてください

写真があれば近くにはってください

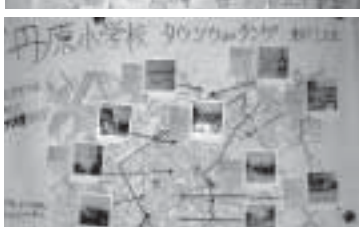
4

＜作成例＞　○○小学校　タウンウォッチング　グループ○班



- 青：危険な場所
- 赤：好きな場所
- 緑：災害の時役に立つもの

5



6

発表について

自分たちが発見したこと
自分たちの住むまちに対して
感じたこと、感想を発表して
ください

発表時間の目安は１グループ５分です。

他のグループが発表するのをよく聞いて、できるだけ質問するようにしてください。

7

色分け

青：危険な場所

緑：災害の時役立つもの

赤：好きな場所

発表内容（５分）：自分たちが発見したもの
初めて聞いた話、新しく知ったこと
感想

8

3.3　ヒヤリングの仕方

ヒアリングに行く前にすること

・聞きたいことは、短く、わかりやすくまとめてメモしておきましょう。

ヒアリング時の諸注意

・あいさつをきちんとしましょう。
・代表の人は自分たちの学校名と名前を言いましょう。
・なんのためにヒアリングするのか説明しましょう。
（例：防災について勉強しているので、被害に遭った人の体験談を聞きたいと思いました。）
・聞いたことはしっかりメモを取りましょう。
・最後にきちんとお礼を言いましょう。

3.4 トラブルに備える

事故に注意

調査に熱中するあまり、車に対して注意力散漫になることから、交通安全係を配置して事故防止に注意する。
上の方を見ていると、足元がおろそかになりがちなので注意する

地域の方々のプライバシーに配慮

調査にあたっては、個人のプライバシーに配慮し、トラブル回避に努める。例えばまちあるきの際に、危険箇所を探したりするが、子供たちが家を指して「ぼろい」とか「つぶれそう」と言ってしまうと、その家の持ち主に対して失礼にあたり、トラブルの原因になりかねないので、子供たちに事前のマナー指導などが必要である。

暑さ対策

夏季に実施する場合は、日射病、熱射病に注意する必要がある。
帽子を着用し、こまめに水分補給するように指導する。

4

タウンウォッチング後の活動

4. タウンウォッチング後の活動

4.1.(1) アンケートの実施

アンケートはタウンウォッチングの前と後に同じ質問をし、その変化からタウンウォッチグの効果が評価できる。

1	あなたの住んでいるまちのいいところを書いてください	自由記述式
2	あなたの住んでいるまちの悪いところを書いてください	自由記述式
3	あなたの住んでいるまちの安全なところを書いてください	自由記述式
4	あなたの住んでいるまちの危ないところを書いてください	自由記述式
5	2004 年の台風について知っていることを書いてください	自由記述式
6	地震の被害を減らすにはどうしたらいいと思いますか	自由記述式
7	タウンウォッチングでどのような話を聞いたか書いてください	自由記述式（TW後のみ）
8	二年前のような大きい台風がまたあなたのすむ地域に来ると思いますか？	はい／いいえ
9	同じような台風が来たとき、その被害はどれくらいになると思いますか？	大きくなる／小さくなる／同じ

図 4-1 アンケート例

4.1.(2)　アンケートの分析例

３．2004 年に発生した台風について知っていることを書いてください

回答を４つのカテゴリに分類する。

例えば…

a. 台風そのものに
関する記述

（例）雨がたくさん降った
被害が大きかった

b. 土地やインフラの
被害に関する記述

（例）川があふれた、
土砂崩れが起きた

c. 家や家財の被害に
関する記述

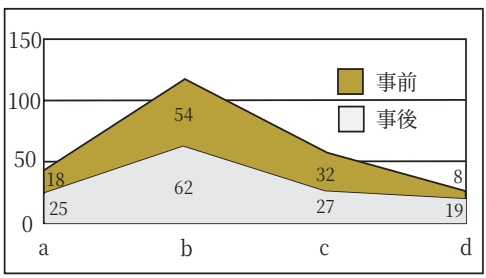
（例）家が床上浸水した、
田んぼに水があふれた

d. 人への被害に関する
記述

（例）体育館に避難した、
亡くなった人がいた

グラフにして前後で比較すると、どの項目の知識変化が大きいかがわかる。

例）A 小学校 (回答数)67 名

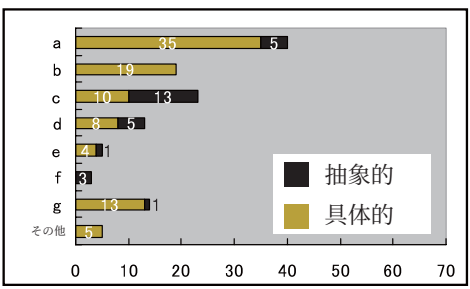


5．タウンウォッチングでどのような話を聞いたか書いてください。

回答を７つのカテゴリに分類する。

a) 過去の災害について
b) 災害の時役立つもの
c) 危険な場所
d) 安全な場所、避難場所
e) 災害が起こったときの対策
f) 災害について一般的なこと
g) 地域のこと
h) その他

例）B小学校 (回答数)67 名

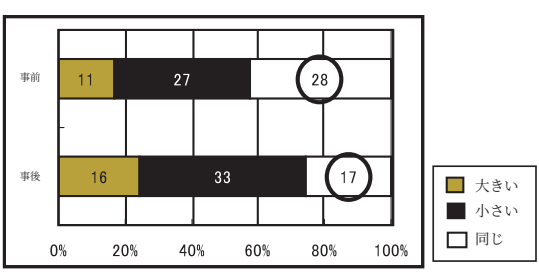


7．同じような台風が来たとき、その被害はどれくらいになると思いますか？

「大きくなる」「小さくなる」「同じ」の回答数を前後で比較する。

C小学校の例では、タウンウォッチング後の「同じ」の回答数が減少している。これは実際にまちを歩くことで、具体的な被害のイメージを持ちやすくなった可能性が高い。

例）C小学校 (回答数)67 名

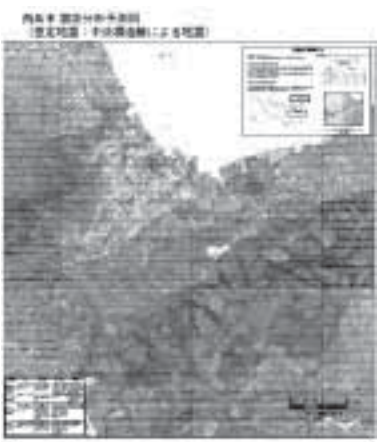


メモ：地域の地理的条件などによって質問項目を変えるとよい

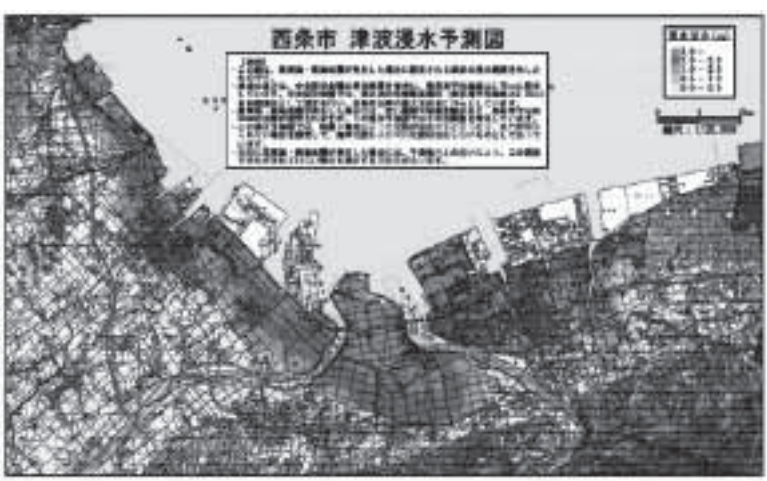
4.2　地域のハザードマップなどと重ね合わせる（客観性を持たせる）

タウンウオッチングの後に、市役所などが発行しているハザードマップや地域情報の載った地図と比較する

例) 地震を想定したハザードマップ



例) 津波を想定したハザードマップ



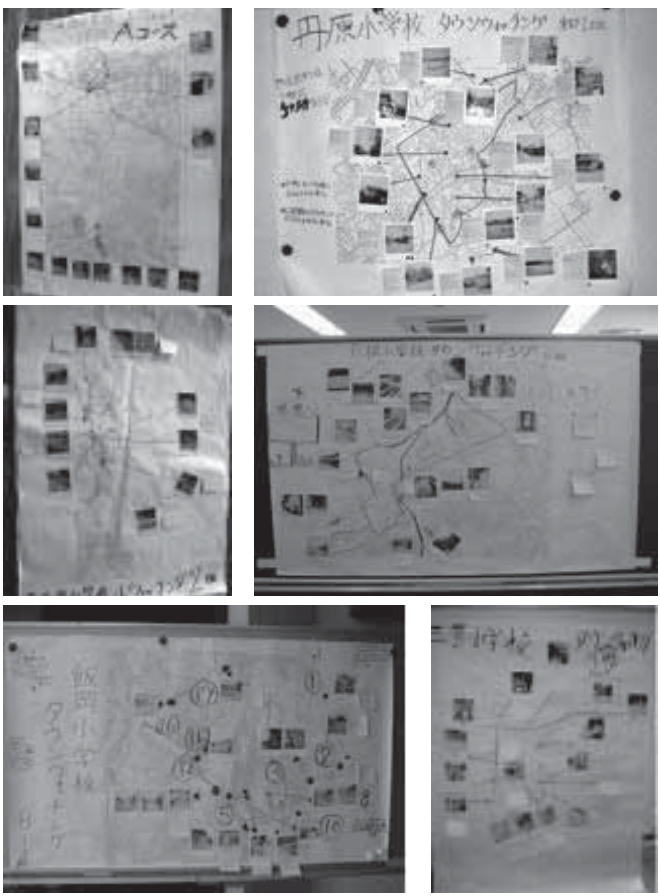
4.3　作った地図を更新する

防災マップは一度作ったらそれで終わりではない。定期的に更新していく必要がある。そのために再びタウンウォッチングを行う、そのプロセスが大切である。

・地域の人に再び防災に関心づける機会となるし、子供たちが作った地図なら大切に貼っておくだろう。

・作成した地図をＡ３サイズ程度にまとめ直す

・子どもたちにとっても、地域の人が使う地図という意識を持って作ればより意識が高いものになるだろう。



4.4　自分の防災対策を考える

タウンウォッチングを通して、自分の防災意識を確認し、次にどういう対策をしていくべきなのか考えさせる。

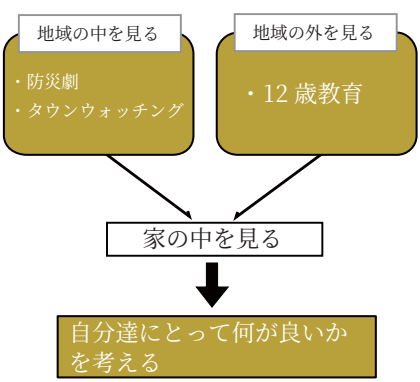
4.4.(1)　地域で自分達ができることを考える

タウンウォッチングを通して地域で今問題となっていること、必要なことは何かを考え、その中で自分たちでもできる対策は何かを考える。

自治会で作成している「防災マップ」とタウンウォッチングで作った地図重ねて、地域の人とどこが一緒でどこが違うのか話をする。

4.4.(2)　西条市におけるタウンウォッチング後の活動例

- 水害時の人の心を描いた劇の観賞
- 調べたこと（テーマに応じて）をVTR（5分）にまとめる
- 調べたいテーマを決め、チームで活動し、防災への提案書をつくる
- 大切なもの→命　こわいもの→地震　地震から命を守りぬける自分になろう、というテーマを導く
- 自分の家庭、学校に防災上必要なことは何か…をテーマに
- 地域の文化財にこめられた平和・安全への願い（聞き取り）
- 地域の被災（災害復旧工事）記念碑づくり（市と一緒に）
- 地震後の生活をイメージする
- 起震車・スモーク・消化の体験学習
- 避難訓練の中で、6年生の学びを生かす
- 台所のDIG
- 学年だよりで保護者に知らせる
- 成果物の作成
- 提案書を地域に配布
- 校内・家庭の場所の図上演習（危険避難）
- 6年生が5年生にプレゼン
- 提案を6年生にプレゼン
- 文化祭での展示
- 自治会長会で作成したVTR他　発表
- 小中合同下校訓練
- 松山市防災センター見学
- 修学旅行で神戸へ（野島断層、未来センター）
- 講演　防災未来センターの方



・災害についてのDVD視聴
・人と防災未来センターで研修（生徒）
・防災の課題を見つけ調べ学習をした
(2年)
・教科と関連させて学習
道徳の資料の学習
・長岡、山古志中との交流
・避難訓練、心肺蘇生法
・地域の災害を扱った資料、教材の開発
・家族防災会議
・生徒が司会役を務め「我が家の防災チェック」などを行った
（家族防災会議）

・ポスター作り
・防災教育啓発資料（家に貼る）
地域の人の家にも
・地域への防災啓発（1人2～3戸）
・防災対策のマニュアル作り
（生徒・教師）
・危険箇所マップ作り
・地図を公民館にはる

資料 1: タウンウォッチングの歴史

タウンウォッチングは、住民たちがグループとして問題点を認識し、一緒に解決策を追求するために、市などの大きな行政単位におけるコミュニティ計画に用いられる参加型手法である。
タウンウォッチングは１９７０年代から日本の都市計画家によって開発され、まちづくりにおける参加型ツールとしてよく知られるようになった。「まちづくり」はエヴァンズらによって「community planning」と訳されたり、「town making」と訳されたりしている。

「まちづくり」の起源は１９６０年代の日本における公害に対する市民デモの運動として帰着することができる。地方自治体は市民との協議が必要になった。最近、いくつかの地域では「まちづくり」がパートナーシップに進化していっている。近年、主に都市計画に焦点をおいた日本の計画実践から、市民の関与を促す「まちづくり」運動が現れている。公共道路へのアクセス、広場、土地利用といったまちづくりにおける関心はタウンウォッチングによって考慮される。タウンウォッチングの利用は災害や安全などを扱うように展開している。それは安全な場所、危険な場所、避難経路といった物理的な問題に関わることである。これは防災タウンウォッチングと呼ばれている。

資料２：他の地域でのウォッチング ～京都大学の取り組みから

タウンウォッチングは様々な地域でテーマを変えて実施されている。

■ベトナム・ダナン市での水辺環境をテーマとしたタウンウォッチング
一ヶ月に一回の池の観察会と年に２回のタウンウォッチングを実施している。

■マレーシア・クアラルンプール市でのごみ問題をテーマとしたタウンウォッチング
ゴミの管理方法について議論をするためにタウンウォッチングを実施している。

■インド・チェンナイ市での沿岸環境と津波災害をテーマとしたタウンウォッチング
2004 年のインド洋津波後の防災対策のためにタウンウォッチングを実施している。

資料３：西条市でのタウンウォッチング

2006 年 8 月、9 月に愛媛県西条市で防災教育プログラムとしてのタウンウォッチングと山ウォッチングを行った。西条市内の小学校 5 校と中学校 3 校で行い、教師・市の市民安全部・教育委員会・自治会・ＰＴＡ・森林組合とともに地域一体で取り組んだ。

＜背景＞

愛媛県西条市は 2004 年の台風 21、23 号によって多大な被害を受けた。この台風から得た教訓を元に、西条市では「西条市実践防災計画」を掲げ、防災・減災力強化を推進している。

また西条市では 2006 年度から「12 歳教育」の取り組みを始めている。大人に近い体力、判断能力が備わってくる 12 歳という年齢に着目し、防災教育を始めとして、福祉や環境に関する活動などを行うことによって社会性を育てていく。その子どもたちが災害時には家庭や地域で大きな働きをなせるような力を身につけていくことが期待されている。

これらの「西条市実践防災計画」、「12 歳教育」の一環として「防災教育プログラム」としてタウンウォッチング・山ウォッチングを実施することになった。

＜当日の様子＞

教師、保護者、地域の自治会、市の職員、森林関係者も参加し、地域が一体となって取り組んだ。タウンウォッチングでは自分たちの住むまちを歩いて、危険箇所や災害に役立つもの、好きな場所を探した。山ウォッチングでは各中学校の近くを流れる川の上流にあたる山間部で、二年前の台風で被害を受けた箇所を探したり、森林についての話を聞いた。それぞれの場所で市の防災担当者が防災に関する話をしたり、自治会の人が地域のことや被災体験などを話した。子どもたちは発見したことをまとめたり撮った写真を貼ったりして地図を完成させ、グループごとに発表を行った。

子どもたちにとっては自分の住む地域や災害に対して興味を持つきっかけになった。また大人たちにとっても新たな発見があり、地域の中でのコミュニケーションの場ともなった。

資料４：2004 年台風災害

2004 年の台風 21 号・23 号は愛媛県西条市に多大な被害をもたらした。山間部では土砂崩れが多く発生し、間伐材や倒木が川に流入して、小河川の橋脚にせき止められて氾濫を起こすという被害が発生した。四国全体では多くの人的被害が発生した。

タウンウォッチング手引き作成委員会

馬場　耕三・神戸小学校　教諭
宮﨑　雅延・飯岡小学校　教諭
菅　　明彦・石根小学校　教諭
山下　広海・三芳小学校　教諭
千羽　達也・壬生川小学校　教諭
八塚　哲美・西条東中学校　教諭
佐々木直樹・西条西中学校　教諭
中野　美紀・西条南中学校　教諭

國田　典良・西条市教育委員会　指導部長
永井　克征・西条市教育委員会　課長
安藤　宏幸・西条市教育委員会　主幹
德増　　淳・西条市教育委員会　主査
矢葺　博憲・西条市教育委員会　総務課長

山内　隆和・西条市市民安全部　専門員兼係長
伊藤　彰浩・西条市市民安全部　主任

ショウ　ラジブ・京都大学大学院地球環境学堂　准教授
竹内裕希子・京都大学大学院地球環境学堂　特任講師
吉田　有希・京都大学大学院地球環境学堂　修士課程学生

タウンウォッチング実施手引き　　2008 年度版

発　行：　〒 793-8601　愛媛県西条市明屋敷 164 番地

西条市
西条市教育委員
タウンウォッチング手引き作成委員会

〒 606-8501　京都府京都市左京区吉田本町

京都大学大学院地球環境学堂

本研究・印刷には、平成 19 年度文部科学省科学技術研究補助金　基盤研究 (B)　課題番号 19402007「地域教育に基づいた市民･行政協働型ウォーター･コミュニティの形成手法開発」の一部を使用した。

デザイン＆レイアウト：森山貴之